

すうがくでせかいをみるのをよんで

さくら小学校 一年 大道 青桃花

わたしはすうがくでせかいをみるののほんをよみました。ほんのだいめいのすうがくはさんすうのことだとおもったので、わたしはさんすうがだいすきだからこのほんをえらびました。このおはなしはひとりひとりには、きつとすきなことがあって、すきなことからじぶんでかんがえたせかいをみつけることができるのかいているほんです。

このこはさいしよすきなことがなかったけど、じぶんもすきなことをみつけないとおもっていっぱいチャレンジしたのががんばりやさんだとわたしはおもいました。

わたしはこのこはおとこのこだとおもいました。おかあさんはおんなのこだとおもったといていました。このこのなまえもかいていないし、ぼくとかわたしとかもかいていないからどつちかわかりません。でもどつちでもいいとおもいました。おとこのこでもおんなのこでもなんでもすきになっていいからです。わたしはさんすうもどうぶつもえをかくのもなわとびもジェットコースターもいっぱいだいすきなものがあります。だいすきなことをしているとたのしいし、うれしいし、やさしいきもちになれます。おかおもニッコリ

えがおです。みんないっしょにあそぼうってよびたくなります。もしいやなことややりたくないことがあったら、あとでいいことがまってるからがんばります。やってみたらたのしいかもしれないし、みんなでやったらたのしくなるかもしれないです。

これからもなんでもチャレンジして、いっぱいすきなことややりたいことをみつけないです。

空を見上げて

よつば小学校 二年 大西 結珠

にじは、七色できれいだから、わたしは、にじが大すきです。今まで、にじの絵をいっぱい書いてきました。にじを書いてみると、にじにのれそうでワクワクしてきます。だから、この本をえらびました。

「にじがかかりますように」そう書かれたたんざくが、風にはこばれてハトのクルルのところにとんできました。そのたんざくを、にじをつくることができます。にじ・じいさんにとどけました。だけど、にじ・じいさんはもうなん年もにじをつくっていませんでした。みんなが、にじを見なくなったからです。にじ・じいさんはたんざくを書いたにじ子ちゃんに会って、なぜにじを見たいのか、そのわけを聞きたくまりました。そして、にじ子ちゃんが通う学校へ行って、にじ子ちゃんのおばあちゃんがびょう気で、「にじが見たい」とずっと言っていることを知りました。それを聞いたにじ・じいさんは、とびきりのにじを二日後にかけてあげる、とやくそくをしました。やくそくの日、雨雲と風と太ようとにじ・じいさんが力を合わせて、とびきり大きなにじが空にかかりました。そのにじを見てみんなは、えがおになりました。それを見た

にじ・じいさんもうれしそうでした。にじ子ちゃんのおばあちゃんを元気にさせてあげるために、みんながきょう力したり、にじ子ちゃんが空にかかるおおきなにじを見てわらっているばめんが心にもこりました。みんなの力でにじ子ちゃんとおばあちゃんをわらわせてあげたい。元気にさせてあげたい。そういうやさしい気もちがすてきなと思えました。わたしも雨がふった後は、にじがかかっているか空をゆっくり見上げたいな。にじ・じいさんが、にじをかけてくれるかもしれないから。